「長いフライトは疲れたけど楽しかったよ！」

「素晴らしいツアーをありがとう」

「❤」

沢山のメッセージがスマホに送られてくる。
疲れ切った目をこすりながら家のベランダでキャメルに火をつけ
この一週間に起きたことを想い返す。
時計は２２時を回っている。
他の８人が今どのように過ごしているかは想像するに容易い。
余力など残っている人などいないのだから......

2015 オーストラリアゴールドコースト旅行記

１０月９日　僕らは成田空港に集まった。
フライトは２０時５５分にもかかわらず１７時前に着いてしまって
暇を持て余している方もいる。
自分を含め９人全てが予定より早く到着していた。
今から始まる予想のつかない、楽しいであろう"旅"に対する期待の表れか
それともタダ単に渋滞を警戒してのことかはわからない。
とにかく"旅"は始まった。

～キャスト紹介～

茨田　正夫さん

地元でカフェを営むお洒落なナイスミドル
細い体で３００ヤードドライブに驚愕
ひと箱￥１００００になっても辞めないと豪語するくらいの
無類のたばこ好き

茨田　寳江子さん
通称　奥様

茨田さんの奥様
カフェでこだわりのコーヒーを提供するやさしい淑女様
そのトークに皆さん癒される

永瀬　秀さん

ゴルフ大スキ練習熱心
冗談好きで見たままのやさしい方
いつも笑顔の３人の娘さんのパパ

山口　秀一朗さん

我らがスポーツプラスの展開するフィットネス
すぽフィット戸塚のビルのオーナー様
車大好きな優しい爽やかガイ

渡邉　克実さん

通称　なべかつサン
こー見えても鳶の頭
人情と男意気が持ち味のキレイ好き
恐ろしいくらいどこでも寝れます。

熊野　聡さん

無類のお酒好きに加え
只今ゴルフ急上昇中！
口癖は「酒はもうやめる！」
かなり面白い方

高橋　祐樹

通称　バシタカ
我らが（株）スポーツプラスの代表
芋焼酎と高校野球をこよなく愛する
最近物忘れが激しいのが悩み
まじめな時と遊んでるときの振れ幅たるや日本一

宅間　祥子

通称　タクちゃん、ショコラテ、など多数
今回の旅のマスコット
あいくるしい笑顔におじさん達はノックアウト
ゴールドコースト数年在住経験あり
今回のツアーの全てをカバー

今井　克宗

通称　イマカツ

ただの酔っ払い

～ブリスベン到着～

身体がふわふわしている。
２時間寝れたかどうか。隣の席だったなべかつさんはまるで
家のベッドにいるかのようにすやすやと寝息をたてていたにもかかわらず
「ねみー」と大あくびをしている。時計は８時ちょうど。
イミグレを通過するやいなや茨田さんは表でタバコをきもちよさそーにくゆらせた。
最高の天気だった。
カリフォルニアのそれにもおとらないくらいの清々しさ。
ここから１時間、ＨＩＳのジャンボバスに揺られてゴールドコーストへ向かう。
運転手のおにーさんはいい人そうだが、とにかくしゃべりつづけた。
よかれとおもってやってくれているのだろうがみんなの気持ちは一つだった。
「寝させてくれ.....」
そうこう思っている間にクイズを出し始めた。
こーなってはあきらめるしかない。寝ているのはなべかつさん一人だった。
クイズのこたえを誰一人答える訳でもなく窓の外をぼーっと眺める。
本当にオーストラリアに来てしまった。
半年前に企画してあっというまにこの日を迎えてしまった。
歳を取るごとに日々のたつのが早く感じる。
あと４日後には帰るのかなんて考えてる自分が嫌になる。

窓の外には都会の喧騒とは無縁ののどかな風景が広がっている。
ゴールドコーストなんて派手な名前の街にむかっているとは欠片も思えない。

まわりのざわめきで目を覚ました。どうやらおにーさんのトークをＢＧＭにねてしまったようだ。
眩しい朝日がこれでもかというくらいに顔を叩く。
外にはビーサンＴシャツのきれーなネーチャンたちがパームツリーの元で僕達の心拍数を高めた。
男衆７人の気持ちはひとつだった。
「これがゴールドコーストか....」

「ホテルに荷物を預けてお金を換金しにいこう！」
このすばらしい世界で待ち受けるであろうすばらしい出来事を前に丸腰でいるほど僕等もアホではない。
人によって換金額は違う。
沢山替える人は沢山遊ぶ気満々の証拠だ。
人の２倍以上替えてる人がいる。
「代表.......」

人間観察は面白い。

PARADISE
CURRENCY
EXCHANGE

~ゴールドコースト到着~

「カンパ~イ」

まずは一致団結の乾杯。
とりあえず懐を温かくしたやいなやそれを使わなければならない。
世界共通の暗黙のルールだ。
この旅は”少しの時間ものんびりしている時間を作らない”というルールを勝手に定めた。
いわゆる息継ぎなしの旅だ。
次から次に予定が襲ってくる。とにかく満喫して頂く。
１０やって７おもしろければ勝ちだ。
換金した途端のビールはいってみればノロシのようなものだ。

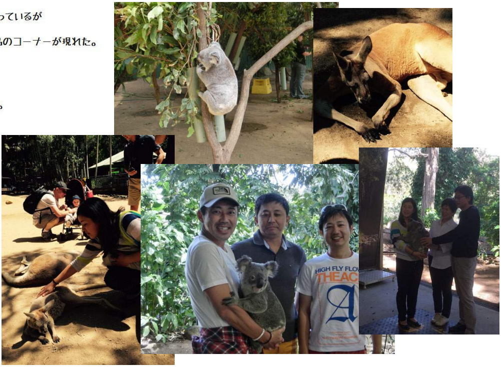
店員のねーちゃんの愛想が悪いと永瀬さんがうなだれている。
感じをだしてオープンカフェで飲んでる僕等にゴールドコーストの洗礼を与えてきた。
「この街は甘くない.....」

~カランビン　ワイルドライフ~~

ビールをしこたま胃袋に放り込んだ僕達はわき目もくれずにタクシー乗り場へ向かう。
夕飯の予約は１７時からだ。
ぼさぼさしている時間などこれっぽちもない。
カランビンはコアラ、ワニ、カンガルーといった一通りのオーストラリア名物がコンプリートできる便利なところだ。
初日にクリアしておくのが得策だろう。
街中を走ること数十分、目的の場所に到着。
しかしこういう場所はとことん値が張る。本当に払う価値があるか皆迷っているが
誰も口にしない。
入口を通過した瞬間にコアラを抱っこして写真をとるなんていう目玉商品のコーナーが現れた。
５５ＡＵドルだ。
なんていう強気な値段だ。
日本国内なら目もくれないところだが
帰ってからの「コアラ抱っこした？」の質問が怖い。
たかだか５０００円足らずをけちって「当然だろ」といえないのは痛い。
結局抱いたことのある３人以外の６人が策にのってしまった。
まーいーだろう。いつしか抱けて良かったと思える日が来る....

カンガルーさんは日向ぼっこにいそしんでいた。
人を人とも思わないほど近づき、タッチされても微動だにしない。
まるで世の中の無常さを知り達観しているようだ。
日々の細かい事でイライラしている自分の小ささを教えてくれる。
完全に負けた。

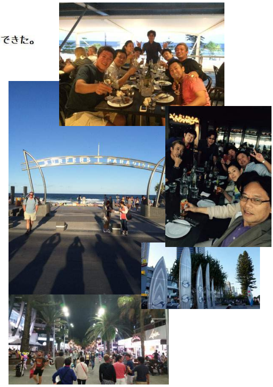
生き物として........。



~ハリケーングリル~

「夕日に向かって歩こう」

そんな臭いセリフを思わず言ってしまいそーなほど見惚れてしまう景色だ。
サーファーズパラダイスなんてナイスなネーミングも許されるのは当然だろう。
パームツリーを両脇に従えた歩行者天国がおしゃれすぎる。
海に近づくごとにショップがカフェやレストランに変わっていき
昼から飲んでいたであろう軽装の地元民が赤ら顔で日差しに照らされキラキラしている。
有名なサーファーズパラダイスのアーチをくぐれば焼けた砂浜と真っ青の海が目の前に飛び込んできた。
　There is nothing missing.
足りないものなどない。
自然の創り出した最高のエンターテインメントだ。
今なら断言できる。これ以上の物などない。
しばし無言で遠くを眺めていた僕等だがそろそろビーチを離れなくてはならない。
１７時からレストランを予約している。
恋人と空港で別れる時のようにさみしい顔を浮かべているみんなを見て
事が予定通りに進んでいることを自分と宅ちゃんは確信した。



「ハリケーングリル」

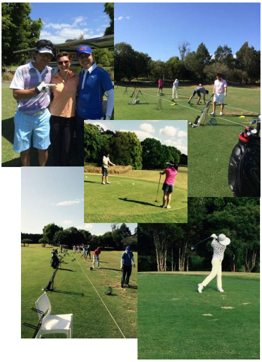
その店はビーチ沿いにあった。
２階に上がって広がる景色を見た彼等は驚嘆の声をあげた。
オーシャンフロントのテラスが予約してあった。
恋人との再会だ。
この店は宅ちゃんと自分が日本にいる間に決め、タクちゃんが国際電話で予約したものだ。
ビーチに残れることを喜ぶ彼らを見て僕等二人は勝ったと思った。
今日は初日だ。脅しを効かす必要がある。
「何事も最初が肝心だ。」と昔の誰かが言ってた。

リブ、シーフード、オージーっぽいものを頼むだけ頼みビールを胃袋に放り込む。
「普段はあまり飲まない」とおっしゃていた茨田さん夫婦がここぞとばかりに飲む姿を見ると
うれしくなった。これぞ旅行だ。
帰りの通りで誰からともなく音楽に合わせ同じステップで踊る集団を見つけた。
奥様がタクちゃんの手を引っ張り輪に加わる。
見事な踊りはさることながらすばらしい社交性だった。

旅慣れテーラー.........。

２日目

～レイクランズＣＣ～



手配しておいたジャンボタクシーにゴルフバッグを詰め込み
意気揚々と戦地に赴く者たちがいた。
まだ今日の時点では誰も傷ついていない。
９人とも笑顔だ。
門をくぐるとコースの周りを囲むように大邸宅が建ち並んでいた。
海まで続くコース内の池はその大邸宅の目の前に位置し、
中にはクルーザーを軒先に停泊させているおバカさんまでいた。
皆が茨田さんに１軒買ってくれとお願いしている。
先に言っておくがこの旅で同様のお願いを１０回は茨田さんにすることになる。
お洒落なモーニングを平らげ、レンジへ向かう。
芝から練習するめったにない機会にウキウキ顔だ。
芝の感触を確かめ、いざコースへ。
基本１８ホールスループレーなのでここで他の２組の戦士たちとはプレー後まで会わない。
お互いの健闘を祈りあい各々出動していった。
結論から言うと皆負けて帰ってきた。レンジに直行だ。各々反省会をし明日に備える。
明日勝てばいいだけの話だ。
帰りのタクシーでは今日の敗戦が嘘のように皆トークに花をさかせている。
それはそうだ。我々は人生において数々の痛みを受けてきた。
いわば傷だらけの身体だ。その傷を勲章のようにし生きている。
この位のことでは下を向くものなどいない。
ナベカツさんだけは寝ている。

～ＵＧＧ　ＫＩＮＧ～

旅行といえばお土産は外せない。
わざわざ旅行に来てその短い行程の中で沢山の時間をお土産買いに使う。
お土産を買うために旅行に来ているようだ。
本末転倒の気もするがそこはしょうがない。
この日はかねてからみんなのお目当てでもあるＵＧＧと呼ばれるシープ皮のブーツを物色しに来た。
嫁さんや娘さんなどから頼まれて大量買いをしている。
永瀬さんと熊野さんはラインで日本に写メを送りこれでいいかと確認している。
便利な世の中になったもんだ。
両の手にでっかい荷物をぶらさげて街中を闊歩するその姿は
一家の主として待っている者へのささやかな気遣いを買い終えた満足感に満ち溢れている。
大きな背中だ。

～イタリアンディナー～

昨晩のパーティーの後、ぶらぶら歩いていると景気のいい音楽と笑顔たっぷりのレストランを
永瀬さん山口さん熊野さんトリオが見つけてくれた。
特に永瀬さんは昨日通り沿いのピザ屋で８分割にしてあるカットされたピザをほうばり
大絶賛していたこともあり、すっかりこの国のイタリアンに対して信用度１００パーセントのようだった。
ランチを抜いていたこともあり１７時から早めのディナーにすることにした。
明るいうちから飲むビールは最高の贅沢というよりは何か悪いことをしているかのようにまで感じさせる。
ここでも魚、肉、サラダと一通り胃袋へビールでほうりこむ。
そろそろオーストラリアの食事はこんなものかと気づくにはいいタイミングだった。
「焼酎呑みたい」
出てしまったそのセリフ。
どこの国に行ってもそう。必ず日本食が恋しくなるタイミングがある。
そのタイミングは人それぞれだが今日はまだ２日目。しかしどーしても飲みたいという人もいる。
うちの代表　バシタカだ。
この男の一言でみんなこらえてきたものが崩壊した。ダムの大決壊だ。
日本食レストランを探す事３０分、異国の地で見慣れた景色になだれ込んだ。
みな解放されたかのように肩の力が消え、「これこれ！」なんて言いながらうまそうに黒霧を呑む姿は
我慢なんてものはする必要ないんじゃないかとまじめに考えさせてくれる。

Chef Specials
Stuffed Mushroom
Lobster and Ricotta Agnolotti
Oven Roasted Duck
Fillet Mignon
Ask your wait staff for the daily specials
Fettucine Pescatore
Pork Belly

３日目

～ロイヤルパインズ～

三日目あたりまでくるとそろそろ帰りを意識し始める。
あと二日しかないなどと誰の心にも悪魔か天使かがささやき始める。
意味もなく気を引き締めなおしたりする。
今日のコースはタクちゃん曰くとってもやさしいコースらしい。
昨日大敗している我が軍としてはみんな胸をなでおろしているところだった。
因みに今日はチーム戦を行うことが決まっていた。
それぞれ昨日のスコアや日頃のアベレージなどに基づき各々のハンディーを決めてある。
ベストスコア方式で行うが勝ち組は夕飯代を免除されるというプレミアム企画だ。
チームはというと.....

クマさんチーム
茨田さん　イマカツ　ナベ克さん

ウサギさんチーム
永瀬さん　タクちゃん　奥様

カメさんチーム
山口さん　バシタカ　熊野さん

手短に話すとクマさんチームの勝利だった。
日本古来からお約束のハンディーがおかしいとかetc...
まーいー終わった話だ。戦うことが目的ではない。ゲームでもして楽しめればいーのだ。
余談だが恐ろしく難しいコースだった。グリーンは固い、風は強いetc.....
まーいー終わった話だ。また帰りのタクシーでは高笑いが止まらない。
なべかつさんの寝息も止まらない.....天才だ。
余談になるがこの日永瀬さんはタクちゃんに個人的に勝負を申し込んでいた。負けたらＵＧＧのブーツ。
勿論タクちゃんは勝利した。女はしたたかだ。
永瀬さんも最初から買ってあげるつもりだったように喜んでいた。

～土ボタル？～

日本から来る前にＨＩＳの石井ちゃんと打ち合わせしている中で
絶対に「土ボタル」は見に行ってくださいねと言われていた。
ただでさえ可愛い石井ちゃんにそんなことを言われたら絶対に行くしかない。
皆も一緒に道づれだ。
１７時半にバスが迎えに来る関係で昼をガッツリ食べて夜はその時の雰囲気でと皆で決めた。
帰ってくるのは２０時半だ。
ハードロックカフェに来て昼からビールを飲みハンバーガーを食べ......
思い出すだけでも罪悪感の嵐だ。それを毎日やっているのだから手に負えない。凶悪犯だ。
そんな凶悪犯９名を乗せたバスが出発した。
またしてもガイドのおと一さんはしゃべり続けている。
なにかおかしいと気づくまでに僕等は１０分とかからなかった。
自分の身の上話、ジブリの話。この二つが交互に耳にたたきつけられる。
わかったことはトトロなどの舞台の元になったこと。おと一さんは宮崎駿を崇拝していること。
まさかとは思ったが国立公園に入ってもおと一さんは期待を裏切らなかった。
木をみてはジブリ。深呼吸してはジブリ。
その日はよりによってでっかいスコールが雷とともに歓迎してくれたわけだが渡されたポンチョは
ひどく臭く森のにおいをかいでみましょう！などといわれてもカッパの匂いしかしないのがオチでした。
肝心の土ボタルはというと正に洞窟の中に現れた星空のごとく光り輝いていた。
しかし頭の中はおと一さんのことしかない。バスを降りホテルに到着した瞬間、僕等は一斉に笑った。
皆　腹がよじれるほど笑いを堪えていたのだった。
石井ちゃんいい思い出をありがとう。

～ホエールウォッチング～

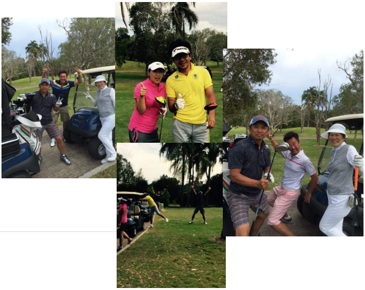
昨日の土ボタルツアーのせいで誰も期待していないのは明らかだった。
またもくだらない物に付き合わされるのかという顔が６個あった。
しかも今日は実質の最終日だ。凶悪犯相手に失敗は許されない。
カントリーミュージックが流れるクルーザーに乗り込み出航の時を待つ。
うち海を静かに走り出す僕等の船。希望と不安を乗せていざ大海原へ。
両サイドには有名な別荘地が広がった。
勿論茨田さんは買ってくれと頼まれていた。
勿論ナベ克さんは寝ている。
爽快な風が前髪を押し上げる。最高だ。間違いない。
両サイドの別荘で上半身裸で新聞を読むおじさん。庭をいじるおじさん。
この国は時がゆっくり流れ、自分の人生をどう使えばいいかということを知っている。
間違いなく日本よりも.....
店は５時には閉まる。それ以降は自分の時間だ。
一生懸命に働いてきたお父さんが退職後ふと我に返りこのままではいけないと
日本を後にし、海外に移住する理由がわかった気がする。
ジャッキー・チェンの別荘を過ぎたあたりから両サイドには別荘も森もなくなった。
海に出た！一気にスピードを上げ始める。２階のデッキに移動する。
船首のバーを掴む。体を押す風、常に船を上下させる波。
膝が悲鳴をあげている。
イルカさんが船の下を泳いでいる。こっちだよと先導してくれているように。
最高だった。こんな時は笑うか叫ぶかしかなかった。
さっきまで凶悪犯だった９人の笑顔は南半球のでっかい太陽と海に照らされて子供の様だった。
いつのまにかナベ克さんも起きて来ていた。げろ袋を片手に。
うなだれるように寝ていたところ、船酔いと間違われて渡されたらしい。

クジラよその姿を見せておくれ。

後は祈るだけだった。
遠くのほうで彼等が潮を背中から吹いた時、僕等のテンションはマックスになった。
高鳴る心拍数。　皆からあがる叫び声。
ゆっくりとまたゆっくりと泳ぎ、呼吸し彼らは海中に戻る。１０分すると７，８頭の群れで海面に戻ってくる。
数回ほどこの繰り返しを見た後、彼らの根城を後にした。
デッキから下に戻るが興奮は収まらない。この企画を最終日に持ってきてよかった。
土ボタルが最終日だったらと思うとゾッとする。
凶悪犯として日本に帰らなければいけない。
あっというまの３時間だった。

～パームメドーズ～

クジラの興奮を後にし、すぐさま着替えて最終ラウンドに望む。
山口さんは現地の友達と会うと言って出かけて行った。
昔話に花を咲かせ、楽しい思い出を作ってくることだろう。
我々８人は最後の戦いへと向かう。
１３時からのスタートだ。
朝クジラを見たあとゴルフするなんて日本の誰が想像できるだろう。
スタート後しばらくして雷がなってきた。永瀬さんは相当怖がっている。
程なくしてサスペンデッドの合図がなった。
お開きだ。
もうお腹いっぱいだ。少し待ってみようなんて言う人は一人もいない。
ホテルに帰って打ち上げの準備をしよう。



～打ち上げ大宴会～

ホテルに着いたのは午後５時を回っていた。
成田を出発してからの全ての出来事の疲労が全身に拡がる。
身体が全てを覚えているというやつだ。
「息継ぎなしの旅」という標題を掲げここまで突っ走ってきたという実感がホテルの部屋に漂い
同室のなべ克さんとベランダでタバコをふかすと、いいしれぬ大きなため息が出てきた。
そういえば昨日の夕方ホテルのプールに飛び込んだ瞬間、熊野さんと永瀬さんは足をつっていたっけな。
ゆっくりはしていられない。フィナーレはかっこよく決めたいところだ。
熱いシャワーを浴びて街にくりだそう。
ロビーで集合して海の方へ向かう。みんないい顔をしている。
永年、東京砂漠で揉まれてきた彼らは、やり切った時のいい表情というやつをそれぞれがしっかり持っている。
働くお父さんの顔、家庭を守る主婦の顔etc......。
その表情こそが年輪となり、この旅の芳醇なスパイスと化し、味わい深い思い出へと姿を変えていく。

最後はオージー料理でと皆で決めていた。
歩きながら店を探す。いい雰囲気の店はあるが決め手に欠く。
最後だ。妥協はしたくない。
この国の最後を飾るに相応しい店でなくてはならない。
海辺沿いまで来ると街並みの華やかさが一層増し、僕等の歩くピッチを否応なしに速めた。
「この店いいんじゃない」
奥様のお許しが出た。即決だ。店内の席と海にほど近いテラスの両方がある。
満場一致でテラスに決定。
鉄板のようなモノを改造して作ってあるテーブルは少し錆臭かったが、誰も口にしない。
海からの爽やかなブリーズとほんのり香る潮風をつまみにビールを飲もう。
サラダ、シーフード、ビーフ、考え得る全てのオージーっぽいものを注文し、パーティーは幕を開けた。
ジョッキの杯数と共に僕等は饒舌になり、時計の針は加速する。ファイナルカウントダウンは鳴っている。
時計の短針が４５度ほど角度を変えたとき、打ち上げ終了のゴングはなった。
茨田さん夫妻、なべ克さん、たくちゃんはパンケーキの店にデザートを食べに行くと言っている。
やり残したものは消化したほうがいい。流石だ。
熊野さん、永瀬さん、バシタカ、イマカツの呑んべぇチームは当然.........。
そーいえば山口さんは何してるんだろう。現地の人と一緒ならさぞかしディープな所に行っていることだろう。
旅慣れテーラー。

～Good bye Gold coast～

mantra legends hotel

頭が痛い。
昨日少々飲みすぎたか。最後の悪あがきと称し、オイタがすぎたようだ。
パッキングは終わっている。後は文字通り帰るだけだ。思い残すこともほぼない。
帰ると言っても飛行機に運んでもらうだけだ。訳ない。
ロビーに集合して最後の記念撮影をする。
点呼を完了し、忘れ物がないかチェックする。
自分がパスポートを部屋に忘れてしまった。お恥ずかしー。
来た時のおにーさんがジャンボバスでブリスベン空港まで送ってくれる。
窓の外を眺めながらボーっと思い返す。
大したことなかったもの、素晴らしかったもの多々あるが、そんなのはどうでもいい。
信じられないくらい初対面の皆さんが仲良くなり、誰とでも気さくに会話を楽しんだ奇跡。
日々の生活の中では考えられないくらいの数の笑顔。
それを最後の手土産に、この地を離れよう。
帰国後もこの仲間が各々に連絡を取りあい、より一層仲が深まれば
この旅はただの旅ではなくなる........。

さようなら　　ゴールドコースト

ありがとう　サーファーズパラダイス

参加者の皆さん　この度は本当にありがとうございました。
これからもゴルフを通じ、触れ合える「場」を常に創造し
皆さんに提供していきます。

（株）スポーツコネクション　一同

Go Lake Hell

～余談ですが～

帰りの飛行機の中、一列に並んで座ったイマカツ、熊野さん、バシタカ、永瀬さんは
「ビリギャル」という映画を観て４人で号泣してしまいました。
永瀬さんは感動のあまり、アマゾンでポチってしまったようです。
おやじになると涙腺ゆるいですねー。

帰ったらたまごかけご飯食べて寝よ。

この奇跡は、あなたにも起こる――
映画
ビリギャル
学年ビリのギャルが
1年で偏差値を40上げて
慶應大学に現役合格した話
有村架純
伊藤淳史
野村周平
吉田羊
田中哲司
主題歌「可能性」サンボマスター (Victor Entertainment / Getting Better)
劇中歌「START ME UP」Saku
5.1GW
絶対合格
ROADSHOW
birigal-movie.jp
©2015映画「ビリギャル」製作委員会